

TUFS Cinemaで 世界の文化・社会の理解を深める

TUFS Cinemaの魅力とは？東京外大で企画することの意義とは？これまでTUFS Cinemaで上映会を企画したことのある2人の教員に伺いました。

真島一郎先生(以下、真島) 萬宮先生は、TUFS Cinemaという名前になる前から、映画を本学で上映されていたのですよね。何かきっかけがあったのですか。



萬宮健策先生(以下、萬宮) 商業ベースでは難しいけど、上映してみたい映画がある、という話が本学にありました。巡り巡って私が担当することになったのがきっかけです。

真島 最初はどのような感じでしたか。

萬宮 当初は主に学生向けの上映会として準備を進めました。ところが蓋を開けてみると、学生だけではなく一般の方も多く訪れて、宣伝も少ない中200人くらい来場したと思います。

真島 それは驚きですね。上映作品はどのように選んでいますか。

萬宮 娯楽ではなく、メッセージ性があるもの、考えさせられるものを選んでいきます。

真島 上映に至るまでの準備も大変ですよね。

萬宮 上映権を持つ現地の方との交渉、日本語字幕の制作・監修、上映用ディスクの作成、スケジュール調整、上映場所の確保、後援・協力依頼、投影機材の確認、広報など、様々な手続き・確認を行って、上映に至ります。最低半年ほど時間がかかってしまいますね。

真島 上映権の所有者との交渉は私も苦労します。このような準備を経てTUFS Cinemaが成功すると嬉しいですよね。

萬宮 はい。多くの方に、目で見て感じて、解説で理解を深めてもらえるというのが嬉しいですね。

真島 一般の方に向けて本学は公開講座(TUFS

オープンアカデミーなど)を行っています、TUFS Cinemaも一般の方に大変好評です。

萬宮 やはり、映像は心に残りやすいですね。観るという点では、外語祭の語劇も名物となっています。映像は学ぶのにとってつけの教材です。

真島 アフリカの映画も、アフリカに行ったことのない方が驚きをもって観てくださっています。

萬宮 行ったことがない国に対しては、どうしても偏見や固定概念を持ちがちですが、そのような概念を覆すような体験をTUFS Cinemaではできるのだと思います。

真島 現場の生活に密着した文化人類学の調査でも、人々のちょっとした表情や息づかいまで描きだすことは容易ではありません。それらを拾い上げてくれるような映画を上映して、多くの方に観てもらいたいと思い、TUFS Cinemaを企画するようになりました。

萬宮 本学は、世界の言語・文化・社会の教育と研究を行う大学です。TUFS Cinemaは本学だからこそできた企画なのかもしれませんね。私も南アジア地域以外のTUFS Cinemaもよく観に行きます。真島先生はいかがですか。

真島 私もTUFS Cinemaをよく観に行っています。行ったことのない土地に、冒頭からいきなり自分が持っていかれるような感覚になります。人々の姿や、それを大きく取り巻く風景の描写が、ひととき鮮烈に感じられるからでしょう。

萬宮 TUFS Cinemaは私にとっても専門以外の地域のことを知るよい機会になっています。日本語字幕が付いているのがいいですね。

真島 そうですね。敷居が高くない開かれた上映会ですね。その上、TUFS Cinemaには、上映後に必ずその地域の専門家による解説やトークがあるので、理解が更に深まります。

萬宮 上映後の解説は大きな特徴ですね。私も上映会のおときは、必ず社会や文化の背景を話すようにしています。質疑応答も盛んに行われます。想定を超える質問があると、そのような見方があるのだと、面白く感じます。

真島 学生も企画を持ちかけるようになりました。

萬宮 長年やっても上映に向けた準備は大変です。学生ならなおさらでしょう。この経験を通じて学生は成長します。

専門分野 文化人類学、西アフリカ民族誌

真島 一郎 教授

萬宮 健策 准教授

専門分野 社会言語学、ワールドワース

真島 学生も、制作サイドや配給元、非営利の上映団体などから多くの学びを得ているようですね。

萬宮 先日監督に上映の許可をもらった、と私のところに来た学生がいました。配給会社の許可も得て、今後実現できたら嬉しいですね。

真島 企画する側が学ぶことも多いですね。本学では入学後、最初に専攻地域の言語・文化・社会を授業で学びますが、実際に現地を見ないと分からないことが多いですね。それが簡単にできるのも、映画の良いところだと感じます。

萬宮 ただ、上映にはそれなりの費用がかかります。

真島 全国的に大学の予算が逼迫している中、本学も例外ではありません。日本語字幕を作成する費用はどうされていますか。

萬宮 協力者の方へ一般的な翻訳料と比べてかなり安価で翻訳をお願いしています。心苦しいですが、それでさえ厳しい状況で困っています。

真島 予算のことを度外視しても、今後、やりたいことなどはありますか。



萬宮 様々な文化や社会を多角的に伝えるために、多くの佳作を年2~3本お届けしたいと思っています。

真島 はっきりと成果が出はじめたTUFS Cinemaを、これからもぜひ発展させていきたいですね。

萬宮 日本で公開される海外の映画は商業的なものばかりで、TUFS Cinemaで上映しているような映画が公開されることがあまりありません。TUFS Cinemaが異文化理解へ踏み出すきっかけとなることを心から願っています。

真島 この対談をきっかけに、協力して発展に近づきましょう！

萬宮 はい、今後もよろしくお願いします！

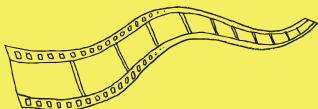
対談の全編はウェブサイトで

▶▶ <https://tufscinema.jp/interview180509>



TUFS Cinemaファンの皆さまへ

ご支援のお願い



東京外国語大学は、世界の言語・歴史・文化・社会に関する高度な研究・教育を行っている機関として、TUFS Cinemaや講演会・オープンアカデミー講座等を通じて、質の高い世界諸地域の情報の発信に努めています。

一方、2004年の国立大学法人化以降、特に人文社会科学系の大学は、財政的にきわめて厳しい状況に置かれていることも確かです。

1,000円からご寄附可能ですので、どうか皆さまからの温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附の払込方法

ご支援に際し、クレジットカード、銀行振込、コンビニエンスストアでの決済など、さまざまな払込方法をご用意しております。詳細は、「東京外国語大学建学150周年基金」ウェブサイトをご覧ください。

お問合せ先

東京外国語大学 総務企画課 基金担当

TEL: 042-330-5126

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

E-mail: tufs-fund@tufs.ac.jp

<http://www.tufs-fund.jp>

